

〔公益5〕大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰

5-1 情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰

<事業計画>

ICTを活用した教員及び大学の教育力の向上を図るため、文部科学省の後援を受けて全国の大学・短期大学を対象に「ICT利用による教育改善研究発表会」を実施し、教育の質的向上に効果的なICTの活用研究を選考・表彰し、インターネットによる公表を通じて教育改善の研究を啓蒙・普及する。

<事業の実施状況>

「ICT利用教育改善発表会運営委員会」を継続設置し、「ICT利用による教育改善研究発表会」を開催し、優れた教育方法を選定・評価・表彰した。以下に、委員会の活動状況を報告する。

ICT利用教育改善発表会運営委員会

5月20日、7月28日、1月18日に平均6名が出席して3回開催し、ICT利用による教育改善研究発表会における発表募集要項の作成、1次選考と2次選考の運営、Webサイトによる公表を行った。

(1) 発表者の募集

平成29年度の発表募集は、平成28年12月に発表募集要項を見直し、29年2月頃までに実施した。また、平成30年度に向けた発表募集は、「教育の質的転換を目指すICT利用」を強調するため、発表内容をアクティブ・ラーニング、双方向授業、反転授業、PBL、TBL、事前・事後学修、協調・協働学修などの取り組みで、教育効果が見られるものに限定して募集した。

(2) 研究発表の選考

- ① 運営委員会で48件の応募について書類選考を行い、47件の発表を確定したが、後日7件辞退があり最終的な研究発表は40件となった。
- ② 1次選考は、8月9日（水）に東京理科大学で3会場において、発表者による発表（機器接続2分、発表時間13分、質疑5分）を行い、選考規程に基づき、選考委員が分担して発表内容及び発表会論文を精査し、以下の基準で選考した。
 - * 教育上の問題解決を図るために、ICTを利用した教育改善の目的・目標が明確に示されていること。
 - * ICTを利用した教育改善の内容と方法が明確に示されていること。
 - * 客観的な評価方法により、教育改善の効果が明確に示されていること。その結果、6件を選考した。詳細は、平成29年度事業報告の附属明細書【2-9】を参照されたい。
- ③ 2次選考は、9月23日（土）に実施し、選考委員全員で1次選考の発表を収録したビデオ及び発表会論文を精査し、授賞の基準に基づき実施した結果、以下の通り、奨励賞1件の授賞を決定した。

平成29年度授賞者

★奨励賞（1件）

「TEDを素材としたアクティブ・ラーニングでGlobal Issuesを学ばせる」

創価大学法学部准教授

前田 幸男

[授賞理由]

本研究は、平和・人権・環境など地球規模の問題への理解を深めるため、英語動画スピーチのTEDを素材にして事前視聴による反転授業を行い、PBLを行う中でLMSを活用して事前学習と事後省察をシステム化・共有化することで、他の学生の英語表現や分析・思考に接することを通じて、新しい知見に気づく機会を提供する実践例である。

(3) 選考結果の表彰

表彰は、平成29年11月27日の第20回臨時総会で発表者を招待し、実施した。

(4) 授賞論文の公表

本協会の Webサイトで公表した。